

財務 VOL.18

損益とお金の関係を明確にするツール

前号までにご説明しました、“資金繰り予定表”は、お金を管理するには最適なツールですが、損益計算書で言うところのいわゆる損益(利益)とは必ずしもリンクしていませんので、損益の金額とお金の増減額との差異の発生原因について正確に把握することが出来ません。

そこで今号では、お金と利益が一致しない原因を読み取れる“**キャッシュフロー計算書**”というツールをご紹介します。

このキャッシュフロー計算書は、簡単に言いますと「**損益計算書の損益＋各種お金の増減要因＝お金の増減額**」という構造になっており、まさに**お金と利益の関係を明確にしているツール**ですので、是非ともご理解いただきたいと思います。

【キャッシュフロー計算書とは？】

キャッシュフローを直訳しますと“お金の流れ”ですので、言葉だけでは“資金繰り表”と大差ないように思えます。

確かに、**お金の増減額**については資金繰り予定表と同じ結果となりますが、キャッシュフロー計算書では、**損益からお金の増減額を計算します**ので、お金の動きのみに着目した資金繰り表とは似て非なるものなのです。

では、どのようなものなのかを例示いたしますので、下記表をご覧ください。

損益金額	15,000 千円
①減価償却費	3,000 千円
②売掛金の増減金額	-4,000 千円
③買掛金の増減金額	500 千円
④税金の支払金額	-2,000 千円
⑤資産の購入金額	-1,000 千円
⑥借入金の返済金額	-6,000 千円
現金・預金の増減金額	5,500 千円
現金・預金の期首残高	10,000 千円
現金・預金の期末残高	15,500 千円

実際はもう少し詳細に表示されるのですが、簡易に表示しますとこのようになります。

先生方がよく税理士さんから説明を受けておられる利益(損益金額)から始まり、そこからお金の増減に関する様々な項目を加算・減算することで最終的なお金の増減金額が計算されるようになっております。

まず、①については、損益に含まれているがお金の支出は伴わないものですので、損益に加算することになります。

その反対で、④⑤⑥については、直接経費に影響しておりませんので、損益から差引くこととなります。

■ おしらせ

レポートの内容は、基本的に弊社が体験した経営上の課題を分かりやすく解説し、少しでも日々の経営に役立てて頂けるように作成しておりますが、「もっと詳しく知りたい」・「こんな話題も取り上げて欲しい」等のご要望がございましたら、**倶楽部会員専用メールアドレス**にてお問合せ下さい。また、「**具体的な相談に乗って欲しい**」というご要望がございましたら、「**無料経営相談**」をお申込み下さい。詳しくは、<http://now.amcp.biz> をご覧ください！

ここまでは、過去にご説明した内容ですので、ご理解いただけるかと思いますが、残りの②③の増減要因については、これまでに一度もご説明したことのない性格のもので、以下解説させていただきます。

【掛け取引がお金に与える影響は意外と大きい!!】

売掛金の増減とは、期首の売掛金残高から期末の売掛金残高を差引いた金額を指すのですが、なぜこのような計算をするのか、実際に数字をあてはめてみましょう。

期首7,000千円、期末11,000千円の売掛金残高があったとすると、**期首の7,000千円は当期に入金するが当期の損益には含まれていない**ので、この金額は損益に加算します。次に、**期末の11,000千円は当期の損益に組み込まれているものの、お金の入金は来期**ですので、損益から差引くこととなります。

そうしますと、計算式は、**(損益)＋(期首)－(期末)**となりますので、売掛金の増減金額は、期首残高から期末残高を差引く、という計算になるのです。

買掛金の増減金額も売掛金同様に、期首残高から期末残高を差引くのですが、売掛金とは逆にお金を支払うものですので、差引いた結果がプラスであればお金が減ったことになるので減算、マイナスであれば加算することとなります。

では、例示しましたキャッシュフロー計算書ではどのようなことが読み取れるのかと言いますと、利益が15,000千円に対してお金は5,500千円しか増えておらず、**その主な原因は⑥の借入金の返済によるものですが、②のように売上が上り、利益が増えたことにより、掛けの売上(医院経営では例えば**社保・国保**)が増えたという事象も大きな影響を与えている**、ということがわかります。

売上が伸びて利益が出ているのに、お金は増えていない、という現象は一見理解しがたいのですが、現在の事業経営においては信用取引(掛け取引)が主になっておりますので、こういうことが普通に生じるのです。

【貸借対照表と損益計算書をご準備下さい】

計算書を作成した結果は、医院によって様々ですが、お金と利益との差が大きい場合は、**なんらかの要因**を見出すことができ、その対応策を考えることが出来るかと思えます。

資金繰り表とは違い、**貸借対照表と損益計算書さえあれば作成可能**ですので、是非とも一度作成していただくことをお勧めいたします。